

Q 1 : 係活動を充実させるための指導のポイントを教えてください。

A : 係活動は、児童生徒が学級の仕事を見い出して創意工夫し、学級の生活をより主体的、自主的で豊かなものにしていく活動であり、学級生活の向上に資するものである。児童生徒の自治的な活動をねらいとしているが、あくまでも自治「的」なので、児童生徒任せにするのではなく、教師が意図的に関わるのが大切である。また、係活動と当番活動には明確な違いがあるので、その点についても教師が十分理解し、児童生徒にもはっきりと意識させる必要がある。
以下に、小学校を例にして指導のポイントを示す。

1 係活動とは

係活動	参考 当番活動
<p>学級生活をより豊かなものにするために、児童生徒が自分たちで話し合って係の組織をつくり、全員でいくつかの係に分かれて自主的に活動する内容。それがあってによって、学級生活がさらに豊かになるもの。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none">・学級新聞係・かざり係・学級の歩み係・歌係・レクリエーション係・ハッピーバースデー係	<p>学級の生活を維持するために、教師が中心となって設定した仕事を、児童生徒がみんなで分担して行う内容。それがなくては困ってしまう、学級生活に欠かせないもの。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none">・花の水やり係・電気係・窓閉め係・配り係・黒板消し係 <p>※上記のように創意工夫するのが困難なものは、1年生の年度当初以外は、当番や日直の仕事として位置付けることが望ましい。</p>

2 係活動の実施までの流れ

(1) 係の種類の設定

- ・「どんな係をつくとよいか」について学級会で話し合い、自分たちの学級が楽しくなるような係を決める。
- ・学年が進む段階で、上級生などから情報を得たり、教師が新しい係を紹介したりして活動の視野を広げる
- ・学期の変わり目などで、必要に応じて統合したり、決め直したりすることも考えられる。
- ・学級生活の充実につながるような仕事の範囲に限るようにする。

<係を設置する上での指導上の留意点>

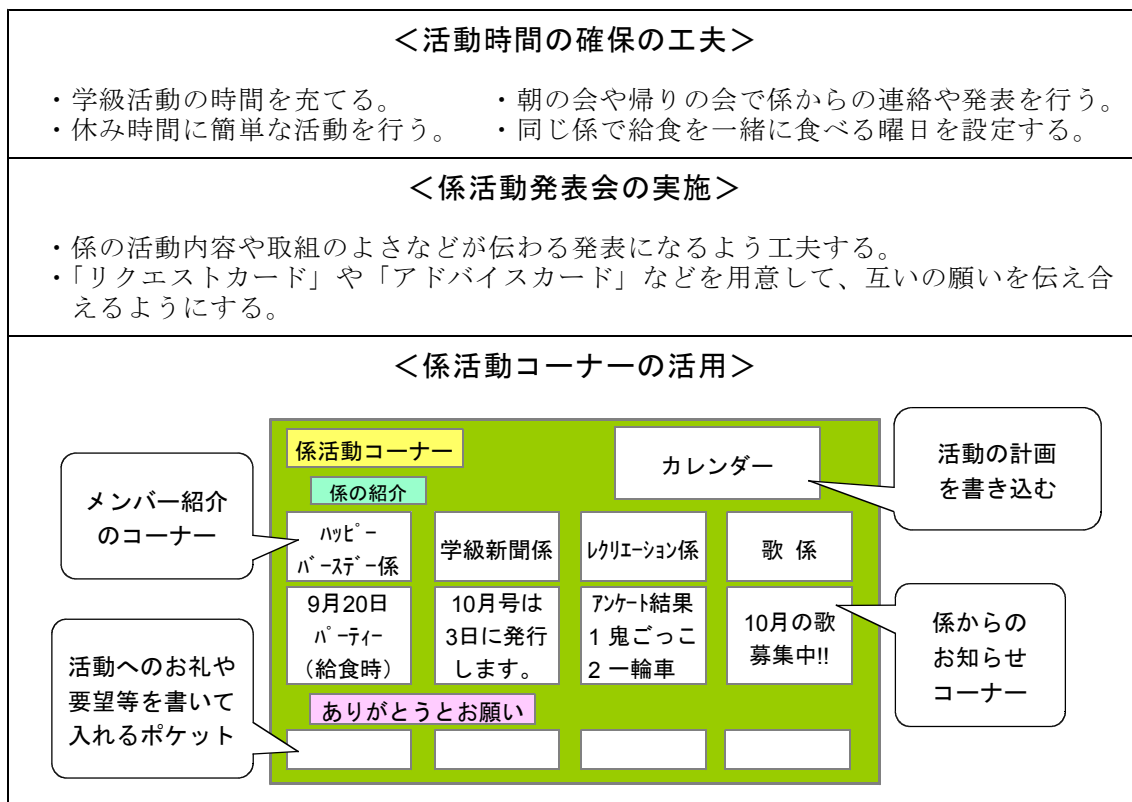
- ・児童が必要とする係であること
- ・創意工夫が生かされること
- ・継続的に活動できること
- ・複数で協力し合って活動できること
- ・成果が学級に反映されること
- ・児童の負担過重にならないようにすること
- ・管理的な仕事の補助にならないこと (提出物や忘れ物をチェックさせる など)



(2) 係の所属の設定

- ・学年等によっては、各係の仕事に応じて必要なおおよその人数を決めてから、児童の希望を尊重して係の所属を決める。
- ・同じ係への希望が多過ぎる場合は、係を二つに分けたり、児童が自主的に譲り合ったりすることができるようにする。
- ・学級会で設定した係は、必ず誰かが所属するようにする。その際、希望者がいなかったり少なかったりした係については、みんなでどうしたらよいか話し合っ、どの係も活動できるようにする。できるだけ2名以上が所属するようにし、協力しながら活動できるようにする。

3 係活動の活性化



4 発達の段階に即した指導のめやす

1年生 入門期	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の内容が当番的であったり簡単な仕事であったりしても、全員が何らかの係を担当できるようにし、どのような仕事が学級生活に必要なかを発見させることから始める。(一人一役の仕事見つけの段階)
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で構成された係で仲よく助け合って活動できるようにする。 ・楽しい学級生活にとって係が必要であるという意識を高める。 ・当番的な活動から創意工夫できる係活動に移行していくようにする。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年までの当番的な活動を整理統合し、創意工夫が活かされる係活動を組織する。 ・活動の計画や悩みなどを学級会の議題とし、お互いの意見や希望を聞くようにして、協力し合って計画的に活動に取り組めるようにする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指導に頼ることなく自主的に係活動を進めたり、自分のよさを積極的に生かせる係に所属したりして、集団的な活動の質を高めていく。 ・児童会の組織とは区別して所属できるようにしたり、活動内容を高学年としてふさわしい創意工夫あるものに重点化したりするなどして、信頼し支え合って活動に取り組めるようにする。

係活動を充実させることで、役割を果たすことによる自己有用感、勤労奉仕の意義の理解や意欲、協力や信頼に基づく友情を大切にする意識などの高まりが期待できる。教師の適切な関わりのもと係活動を活性化させ、児童生徒の自治的能力を高めていきたい。

【参考資料】

・指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」	H26.6 国研
・中学校学習指導要領解説特別活動編	H20.9 文科省
・小学校学習指導要領解説特別活動編	H20.8 文科省